

NEWSLETTER

当社の旬な話題をご紹介します

大気社ニュースレター

発行元：株式会社大気社 経営企画部
広報・サステナビリティ推進課

連絡先：mailmast@taikisha.co.jp

JAN. 2026

ISSUES #9

経営と次世代をつなぐ

未来の大気社を描く 長期戦略策定プロジェクトとは

社会や産業構造が大きく変化する時代において、企業には目先の成果だけでなく、将来を見据えた構想を描き、それを担う人材を育てていく姿勢が求められています。

大気社が取り組む長期戦略策定プロジェクト「Next100th」は、2040年という時間軸を据え、次世代を担う人材が主体となって会社の未来を考え、新たな価値創出や可能性について考える経験を通じて、未来の大気社を担う人材を早期に育成する試みです。

本号では、この取り組みを通じて大気社が大切にしている考え方や、未来に向けた姿勢をご紹介します。

次世代が担う視点で 大気社の未来を構想する取り組み

大気社では、長期的な視点で会社の将来像を考えるとともに、次世代を担う人材の育成につなげる取り組みとして、長期戦略策定プロジェクト「Next100th」を進めています。本プロジェクトは、創立110周年を迎えた2023年を節目にスタートし、2040年を時間軸に将来の社会や事業環境を見据えながら、当社のありたい姿を描き出し、そのために必要な長期戦略を策定します。

Next100thの特徴は、若手・中堅社員から選抜されたメンバーによって検討を深めていく点にあります。結論を急ぐのではなく、議論を重ねるプロセスそのものを重視し、将来を担う世代が主体的に会社の未来について考えていきます。こうして考え出された当社の未来像は、最終的に経営との対話につなげられ、議論を深めていく設計となっています。この一連のプロセスを通じて、参加メンバーの視座を高め、将来を考える力を育んでいくことを目指しています。

次世代が構想を磨き上げ、 経営へつなぐプロセス

オリエンテーション

プロジェクトの目的や進行方法を共有し、参加者が目指すべき方向性を理解する初期段階。参加者同士の交流を深め、プロジェクトの基盤を築く。



各グループ3名で構成しワークを進める
(オリエンテーション)

インプットフェーズ

PEST分析やSWOT分析などの手法を学び、事業環境や未来予測を習得する段階。参加者のスキルを向上させ、戦略的思考を養うための重要なプロセス。

講演会

社外の経営者や起業家を招き、経験談や社会課題、事業推進の実態を学ぶ機会。多様な視点を取り入れ、参加者の視野を広げることを目的とする。



各チームで策定したゴール像を議論
(アウトプットフェーズ)

アウトプットフェーズ

2040年のありたい姿を策定し、それに向けたストーリーを構築する段階。研修や講演会で得た知識を活用し、具体的な戦略を練り上げる。



社長への中間報告

役員プレゼンテーション

約10か月間のプロジェクトの集大成として、役員陣に提案。経営層とのディスカッションを通じて提案内容が磨かれるだけでなく、参加メンバー自身の視座も引き上げられる。

このNext100thプロジェクトは、未来を担う若手・中堅社員が2040年のありたい姿を見据え、そのために必要な長期計画を策定する過程を通じて未来の大気社を担う人材を育成するプログラムです。本プログラムのファシリテーターを務める外部の専門家からは「経営、事業、未来など抽象的なテーマについて、最初は戸惑いながらも自分ごととして深く考え抜き、言葉にし結論を出す。この経験が、今後にかける貴重な機

会になったのではないか」とのコメントをいただいています。

また、事業環境分析や未来予測の手法を学び、社外の経営者や起業家から知見を得ることで、参加者の視野を広げる機会を提供し、論理的思考や未来を創造する力を高めていきます。これらの経験は、参加者が会社の未来を切り拓く原動力となり、大気社が持続的に成長するための重要な布石になると期待しています。

Next100thの原点にある経験と人材観

このプロジェクトは、社長・長田が2008年に参加した長期事業戦略策定プロジェクトでの経験を起点として発足しました。部署や立場を超えて将来像を真剣に議論した当時の体験は、経営に携わる現在もなお、長田の思考の礎となっています。一方で、これからの時代に対応していくためには、これまでの効率や生産性を重視した画一的な人材育成だけでなく、もっ

と、創造性や主体性を発揮できる人材を育成・輩出できる仕組みが必要ではないかと感じています。Next100thでは、既存の枠にとらわれず、自ら問いを立て、構想を描く力を持つ人材の育成を重視しています。目標の達成そのものよりも、真剣に考え抜く過程で得られる経験こそが価値になる――。長田のそうした考えが、この取り組みの根底にあります。



長田 雅士 代表取締役社長